

## 高野温子主任研究員

日本では少し大きな書店に行く  
と「生物」または「植物」のコー  
ナーがあり、大きささまざまな図鑑  
が並んでいます。自宅周辺を散歩  
する人が増えたコロナ禍以降、図  
鑑の種類はいつそう増えたように  
思います。

明治以降、昨年NHK連続テレ  
ビ小説のモデルになった牧野富太  
郎をはじめ、多くの植物分類学者  
や地域の植物愛好家たちの地道な  
活動によって、日本の植物相は明  
らかにされてきました。漬物石と  
して使えそうな分厚く重たい植物  
図鑑がずらりと本棚に並んでいる  
のを見れば、日本の植物はもうす



っかり調べ尽くされたのでは、と  
思われるかもしれませんが、と  
ころがそうではないのです。

現在、分担者として関わっている  
環境研究総合推進費の調査では、  
3年間で121もの「新種」とお  
ぼしき植物が見つかりました。正  
式には新種とは記載論文が出版さ  
れて初めて認められるものなの  
で、いまはまだ「新種と目されて  
いる植物」なのですが。

こんな短期間に大量の「新種」  
が見つかった背景には、DN  
A解析技術の飛躍的な進化と、研  
究チームの全国をまたにかけた精  
力的な野外調査のおかげもありま



筆者が新種と考えている  
タツナミソウの花

す。加えてひとほくのような、日  
本各地にある地方の自然史博物館  
の集積してきた標本資料が大いに  
役立っています。

日本全国くまなく植物を調査し  
て回るには膨大な時間とコストが  
必要ですが、地方の自然史博物館  
には地域の標本が集積しているの  
で、収蔵標本を調べることで、直  
接現地に行かずともどこにどんな  
植物が生育しているかが分かりま  
す。

状態の良い標本なら、標本から

DNA抽出ができる可能性もあり  
ます。それができなかったとして  
も、標本ラベルで採られた場所を  
確認することで、目標とする植物  
の効率的な採集計画を立てること  
ができます。野外調査は植物が地  
上に表れている春から秋の間に限  
られますが、標本調査は一年中実  
施することが可能です。

研究チームは、野外調査と各地  
の公立や大学博物館の標本調査を  
並行することで、日本各地から効  
率的に材料を収集してきました。  
今後はこれら新種とおぼしきもの  
の記載論文を順番に発表していく  
必要があります。

私も担当するシソ科タツナミソ  
ウ属に二つの新種候補を抱えてい  
ます。記載論文を書くための標本  
調査が終わったところで、今年中  
には論文を書き上げて発表したい  
と考えています。

ひとほく  
研究員  
だより

博物館の標本

「新種」の植物発見に貢献